

# 京都から発信する政策研究交流大会

## <事業概要>

京都から発信する政策研究交流大会は、都市が抱える課題を見つけ、それを解決するための研究を行う学生が日頃の研究成果を発表し、大学やゼミの枠を越えた交流を深め、社会に対する政策提案・情報発信の場となることを目的として、2005年度から開催している大会です。政策系の学部を有する大学のみならず、多様な大学の学生の参加を促し、研究発表を通して更なる研究の深化と広範な交流の機会とすることを目指しています。



## <参加者の声>

- 自分たちの学び・研究を他者に評価してもらえる場を提供していただいたから。
- 大会に出場することで、自分たちの研究内容を論文と発表を通して1つの形にすることができたから。
- 他の大学がどのような研究を行なっているか知ることができ、良い刺激を受けたから。
- 評価基準の曖昧さを改善してほしい。評価基準を分科会ごとで統一するべき。
- 開催間近の連絡事項をもう少し余裕を持って通知して欲しいと思いました。
- 学生の方が主体で行われるトーク時間はもう少し意義のあるものに出来るのではないかと感じた。

## <参加者の声を受けて改善を図った点>

- YouTubeライブの視聴期間を長くしてほしいという声を受けて、2021年度は前年度よりも長く視聴期間を設定した。
- 学生企画は、発表後に参加するにあたりできる限り負担を感じないような内容としてフィードバック交流会とトークセッションの二本立てとし、学生同士で発表内容を振り返ったりすることで交流を活発にした。
- 当財団のインターンシップの受入先企業など、周知先を昨年度より広げた。
- (参加者ではないが)応募したものの定数に漏れてしまい、残念であったという声がいくつかあったことから、発表者数を昨年度より増やした。

## 【総括】

2021年度はコロナ禍の影響により、昨年度に引き続きオンライン開催とした。初めての参加となる大学や理系学部からのエントリーも見られたことから、本大会が回を重ねるにつれ、幅広く各大学内に浸透してきたのではないかと考えられる。応募組数は99組と昨年度に比べて増加し、発表組数の枠も昨年度より増やした。大会参加者からは「他の発表を見ることで多くの学びがあった」「普段できない経験ができた」など開催に意義を感じる声が多く寄せられた。一方で審査基準や直前の事務局からの連絡などについて、改善を望むコメントも多く見られたので、次年度はそれらを改善して実施したい。

## 参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	80	88	84	130	57	117
不満(名)	0	5	3	8	6	10
満足(構成比)	100.0%	94.6%	96.6%	94.2%	90.5%	92.1%
不満(構成比)	0.0%	-5.4%	-3.4%	-5.8%	-9.5%	-7.9%
DI値(構成比)	100.0%	89.2%	93.1%	88.4%	81.0%	84.3%
参加者数(名)	423	352	392	507	433	607

## 他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	61	76	67	95	56	99
非推奨(名)	1	4	0	2	3	10
推奨(構成比)	98.4%	95.0%	100.0%	97.9%	94.9%	90.8%
非推奨(構成比)	-1.6%	-5.0%	0.0%	-2.1%	-5.1%	-9.2%
DI値(構成比)	96.8%	90.0%	100.0%	95.9%	89.8%	81.7%
参加者数(名)	423	352	392	507	433	607

## ※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>